

A0403-03	配管系のラインアップ作業を怠るな		
本文	運転や移送を開始する前に配管系のラインアップを確実に行うこと。		
リスクの種類	流体の漏えい、異種混合による異常反応	関連目次・章節	
理由(何故)	<p>① 保全部門での作業が終了して、運転を開始するとき、配管系のラインアップが不十分でバルブ閉やボルトの締め忘れにより可燃性流体が漏えいし、火災事故になる危険がある。</p> <p>②原料・製品の受け入れのラインアップを確実にしないと、他のタンクに誤って接続することなどで、品質上の問題が出たり、反応で有害物を発生して災害を起こす危険性もある。</p>		
方策	<p>1)作業マニュアルを整備する。</p> <p>2保全部門と運転部門との連絡体制を確立する。</p> <p>3)工事担当と運転担当とで実施した作業内容と作業終了の確認を行う。</p> <p>4)特に、間違えれば危険を伴うラインアップは、最新のチェックシートのみを正とし、これに基づき複数人でチェックを確実にを行う。</p> <p>5)業者に作業を指示する場合は、必ず担当者は立会を行う。</p>		
事故例	<p>長野県上田市の油槽所において、ガソリンの輸送を開始したとき、配管の継ぎ手部分からガソリンが漏えいして火災が発生した。</p> <p>この他、石油精製、石油化学プラントにおいても、バルブの閉め忘れ、連絡の不備などによりバルブやフランジ部分から可燃性物質が漏えいして火災になった例が多数ある。</p>		
法的参考事項			
備考	<p>ラインアップとは、配管や容器の接続、すべてのバルブの開閉が正しくおこなわれていることなどを確認し、運転などの開始の準備が整っていることを確かめる作業。</p> <p>事故例の出典は「JST 失敗知識データベース」</p>		